

# NISAと

プロ棋士八段  
優待投資家

# 桐谷広人氏

## 株主優待で 人生を豊かに

皆さん、こんにちは。紹介していただきました桐谷広人です。普段は地方の講演会だと大体自転車で入ってくることが多いんですけど、今日は用意がないんで走って入ってきました。

今日は「NISAと株主優待で人生を楽しく」というテーマで話しますが、株式投資をされない方も多いと思うんで、優待の話だけでなく、私の経験したことも話していきたいと思います。

私は元は将棋のプロ棋士で、十八歳とちょっと遅いスタートで東京へ修行に出て、二十五歳でやっと四段になりました。将棋の世界はプロになれるのは五人に一人くらいで、私は遅かったんで「二十一歳の誕生日の前までに初段にならなければクビだ」という年齢制限まであって、本当に大変でしたね。入った時は誰でも自信満々なんですが、なかなか勝てず、二十歳の誕生日を迎えた時もまだ二級で、もう後悔しました。「将棋の世界に入るんじゃなかつた」と。



そんな時に、十九歳の時に読んだ本が人生に大きな影響を与えてくれました。当時一六〇〇円の『幸福への挑戦』という本で、原題では『心の舵』といつ、心の中の思ったことが実現するという心理学の本です。著者は外科医のマクスウェル・マルツさんで、人間は見た目よりも心の持ち方が大事で、それが人生を決めんじやないかという本を書かれたんですね。

私はその本を読んでから、心の持ち方が大事だと悟り、昇級の一番になれば「自分は必ず勝てる」とい聞かせたら、そこから連勝するようになって、首になりずに済みました。

それから初段になった直後、体調を崩して三ヶ月休養した時も、大山名人が私の同級生の母親に「桐谷さんは八段になりますよ」って言つてくれたと聞いて。それを聞いたり急に元気が出て、ご飯が食べられるようになって復帰できました。

大山名人は後年「仲間内のことを見かれたら褒めることにしとるんですよ」とおっしゃいましたが、それで

も人から褒めてもうつこと、そして心の持ち方が非常に大事なんだなと思いました。

また、初段で二年間も停滞していた二十一歳の時、将棋連盟の事務員だった内田さんという女性と友達になつたんです。最初は西華産業という株を買って、一ヶ月もしないうちに五万円ぐらい儲かつちゃつて。働かないでこんなお金を儲けていいのかなと思いながら、将棋の本職よりいいんじゃないかとさえ思いましたね。

誰もが高校卒業ではプロは無理だと断言する中、彼女だけが「桐谷さん、必ずプロ棋士になれますよ」って言ってくれた。彼女は将棋を知らない人でしたから、お世辞ではない。その言葉に元気が出て、そこから急速に一段、二段と昇段していくけれど、大山名人の言葉と彼女の励ましが、私にとって非常に大きかったと思います。

二十五歳でプロ棋士になり、二十九歳からは東京証券業協会の将棋部師範を二十数年勤めました。その付き合いで一九八四年に株式投資を始めたんです。最初は西華産業

バブルの時代でしたから、どの株を買ってもどんどん上がる。それで自分のお金でやるだけでなく、借金で大きくやればもっと儲かるんじゃないかと思って、信用取引を始めたんですけど。そうしたらバブルが弾けて、五年ぐらいかけて儲けた一億円を八ヶ月で擦つてしまい。株に気を取られて将棋の成績もボロボロになり、順位戦で十戦全敗したこともあります。

その後も山一證券の破綻やリーマンショックで大損しました。特にリーマンショックでは、信用取引でナンピン買いを続けたせいで、三億円あつた金融資産が六分の一になってしまった。一番安くなつたところで株を売らなきゃいけないという縛り前状況に陥つたんです。でも、その時も長く忘れていた「心の舵」の教えを思い出して、「必ず失った富を取り戻すんだ」と毎日念じ続け、数年で取り返すことができました。



信用取引、借金でやる株は非常に危ない。値上がりを狙うだけの投資も危ないです。

最近、日本は貧しくなつていて、エンゲル係数が四十三年ぶりの高水準を占めました。税金や社会保障費の割合もどんどん上がって、生活は苦しくなっています。フランスの経済学者トマ・ピケティさんが『21世紀の資本』で、株と土地は賃金や物価の上昇をはるかに上回つて上がつていくと証明しました。だから、預貯金のある人は株式投資をやつた方がいい。

去年から新NISA制度が始まりました。旧NISAより非課税枠が大幅に増え、永久に税金がかからないうといふ非常にいい制度です。でも、まだ日本人の四人に三人は株式投資

をやっていません。最近話題になつてているテスタさんのような才人ばかり一部で、普通の人は値上がり狙いの投資では損することもあるから怖いと思うんですね。そこで私が勧めたいのが、NISAを利用した株主優待を自当でにした分散投資です。

世界中の株は値上がりか配当で儲けますが、日本には独自の株主優待制度があるんですね。日本の上場企業約三九〇〇社のうち、四割強が優待制度をやっております。配当があつて優待のある株がいいんです。優待株の分散投資なら怖くないし、ほとんどの人が利益を得ることができます。なぜなら、業績が悪くなると配当はなくなる会社が多いですが、株主優待は続けてくれる企業が多いからです。優待は一度始めるとなかなかやめないと確実性がある。

私は家賃と公共料金以外は、すべて優待で賄つていると公言しています。身につけているものもほとんど優待品ですよ。例えば、今日初めて着けたりュックはSAC'S BAR (サックスバー) の優待でいただいたkipling (キプリング) のバッグ。カーディガン風のものはAlpen (アルペン) の優待券で期限ギリギリに買ったもの。履いているズボンはRight-on (ライ

トオン) の優待です。株価は下がっても、優待券は継続して来るという利益があります。リーマンショックのピンチも、私が当時四〇〇社持つていた優待株の分散投資で乗り越えることができました。

今日優待でないのは、金沢で時計

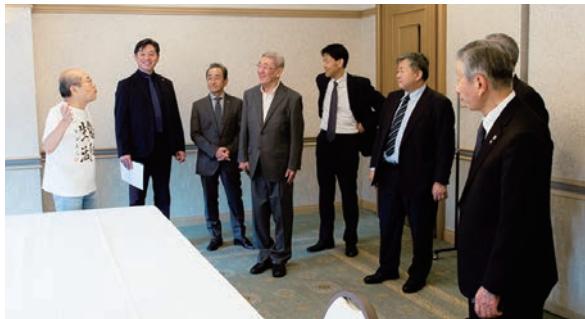
屋さんにいたいた時計と、あともう一つ、名古屋の方が作つてくださつたこの今着てある「優待生活」Tシャツです。あとは身に付けているものは全部優待なんです。

とにかく、優待株の分散投資が一番いい方法だと思います。安い株を買ってじっくり持ち、株価が下がつても優待をもらいながら待つ。議決権行使をするだけでもクオカードがもらえたり、お菓子のセットが来たりする特典もあります。

まずは、雑誌の『ダイヤモンドZAi (ザイ)』や『日経マネー』を立ち読みして、良さそうな銘柄を手数料がただのネット証券で買ってみる。優待株を買うところから、人生を豊かにしてほしきですね。

ご清聴ありがとうございました。





ご希望者のスマートフォンでお一人ずつ撮影される桐谷氏  
講演後の撮影会は、長蛇の列となりました。



## 桐谷広人氏 きりたにひろと

プロ棋士八段、優待投資家

1949年 10月15日生まれ。広島県竹原市出身。  
1975年 25歳でプロ棋士四段になる。  
1984年 東京証券協和会の将棋部師範をしてい  
たことをきっかけに株式投資を始める。  
2007年 七段で現役棋士を引退(57歳)。株式投  
資に力を入れる。直後にサブプライム  
問題。  
2008年 リーマンショック時に信用取引で大損。  
3億の金融資産が6分の1に。以後、  
現金をほとんど使わないで、株主優待  
生活を送る。  
2013年 「月曜から夜ふかし」でブレイク。獨  
特なライフスタイルがテレビでも人気で、  
お茶の間の投資家として絶大な人気を  
誇る。

